

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 多摩市立東寺方小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 206 - 0003

E-mail maruyama-masayuki@city.tama.tokyo.jp

Website <http://schit.net/tama/eshigashiteragata/>

幼児児童生徒数 男子 242名 女子 237名 合計 479名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「環境」を活動テーマとして、ESDの実践を通して自分たちにできることを実行し、発信する力の育成を目標とした。

具体的には、海の豊かさを守ろう、陸の豊かさを守ろう、産業と技術革新の基盤を作ろうということを中心に、①川の生態に係わる学習②ごみに係わる学習③産業に係わる学習④森について関わる学習を行った。

①川の生態に係わる学習

2年生と3年生では、川の生態に係わる学習を行い、川に親しむことを目標とした。2年生は、生活科で多摩川に行き、川の中に生息する生き物を調べたり、石きりを行い川で遊ぶ楽しさを体験したり、草原で昆虫を探したりする活動を行った。川には想像以上にたくさんの生き物が生息することを知り、学習後、休みの日に川を訪れる児童もいた。学習後は、学習発表会と関連させ、多摩川で発見したことを絵と短い言葉で表現し、記録として残すようにした。自分が一番心に残ったこと考えて文を作り、校内全体に広めることができた。3年生では、学校の前を流れる大栗川について調べる学習を行った。ゲストティーチャーを招いて、川の周りにいる動植物について調べ、実際に川の中に入って生き物を探す活動を行ったことにより、生き物についての気づきを得ることができた。捕まえた生き物は、教室の前で育て、いつでも大栗川についての振り返りを行える環境になっている。

②ごみに係わる学習

4年生は、「エコ探検隊がゆく」という総合の学習で自分たちが環境のためにできることを考え、発信できることを目標とした。そこで、本校の近くに流れている大栗川のごみ拾い、学校公開での環境に関するポスターの配布、本校の近くの公園へのゴミ箱の設置に取り組んだ。大栗川のごみ拾いでは、川に捨てられているゴミの多さに気付くことができた。そこで実感したことをもとに、ゴミのポイ捨てをしないことや節水の大切さを訴えるポスターやチラシを作った。また、ゴミのポイ捨てを減らすために、ゴミ箱の設置に行動を移した。ゴミ箱のデザインを考え、ゴミ箱を作り、ゴミ箱に入っているゴミを片づけるところまで自分たちで行った。3つの取り組みを行ったことで、ポイ捨てをしないことやごみを見つけたら拾うなどの意識が高まり、自分たちで考えたことを行動に移すことができた。

③産業に係わる学習

5年生は、本校に広がるおよそ600㎡の学校田を生かした稲作づくりを通して、これからの産業・食について自ら課題をもち、課題について主体的に解決できることを目標とした。稲作に使用する水源は、隣接する学校林「ひのきの森」を水源とし、全て学校の周りにある自然によって稲作を行えた。日本人の食の中心でもあるお米を育て、収穫し、調理をすることを通して伝統的に受け継がれてきた栽培方法や農家の人々の苦勞を知った。米を使った料理について調べる学習を通して、米は様々な種類の料理に使われていたり、形を変えて使われたりしており、産業の中心の役割をしていることに気付いた。また、収穫したお米を実際に自分たちで調理をすることでお米を使った日本料理について改めて考えることができた。田おこしや田植えを行うことで、世界の国々の食事や自然に興味をもち、苦勞や喜びを体験できた。

④森について関わる学習

6年生は、「ひのきの森プロジェクト～みんなおいでよ、ひのきの森～」をテーマとして学校の敷地内にあるひのきの森を残し、よさを伝えるための学習を行った。体験を通して、私たちを取り巻く自然の現状や社会にある諸問題を理解する力、解決策を多面的・総合的に模索できる力を育むことを目標とした。活動の第一段階として、ひのきの森の現状について学び、八ヶ岳移動教室では森の必要性や役割について学んだ。また、ひのきの森を実際に歩き現状を知り、学校内でひのきの森についてのアンケートを行った。現状を知り、物づくりチーム、湧き水整備チーム、散策道整備チーム、ヒストリーチーム、アニマルプラントチームの各チームが結成され作業を行った。活動を通して、身近な環境に目を向け、小さなことから継続して活動することが環境を守ることに繋がっていくことを児童が実感できた。また、活動が継続して行えるように低学年へ活動内容を紹介する予定である。



① 4年公園へのごみ箱設置



② 3年大栗川の動植物調べ

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

| | | | |
|---|---|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境 | <input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー | <input type="checkbox"/> 3. 防災 | <input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動 | <input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性 | <input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産 | <input type="checkbox"/> 8. 人権・平和 |
| <input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉 | <input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育 | <input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費 | <input type="checkbox"/> 12. 貧困 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 13. エコパーク | <input checked="" type="checkbox"/> 14. ジオパーク | <input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED) | |
| <input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等 | <input type="checkbox"/> 17. その他() | | |

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

| | |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力 | <input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度 | <input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度 | |
| <input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入) | |

ウ. 活動時間 (複数選択可)

| | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間 | <input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間 |
| <input type="checkbox"/> 3. 特別活動等 | <input type="checkbox"/> 4. クラブ活動 |
| <input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述) | |

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

| |
|--|
| 「川の総合学習」 ポプラ社 「世界と日本の水問題」 文研出版 「これはたいへん！ ゴミの話」 文研出版 「米で総合学習～みんなで調べて育てて食べよう！」 金の星社 「みんなでめざそう循環型社会」 学習研究社 「yahoo kids」からの検索により見つけられたサイト 等 |
|--|

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では、「持続可能な将来が実現できるよう、課題を見いだし自分なりの考えや取組の成果を発信し交流できる資質を育てる。」ことを目標に教育課程の基本方針及び指導の重点に位置づけている。その中で、本校の前を流れる大栗川や敷地内にある学校林「ひのきの森」の環境を生かした指導を行っている。また、多摩市水辺の楽校に所属する専門家に協力していただいたり、置かれている環境を確かめてから自分たちで課題を設定したりするなど、指導方法の工夫改善に努めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

5年生では、学校田を生かした稲作づくりの取り組みを継続して行っている。活動後には、5年生から4年生へ「どのような活動を行ったか」を報告する時間を設けるよう指導計画を変更し、来年度5年生で行う稲作づくりの見通しをもてるようにした。

6年生では、学校の敷地内にある「ひのきの森」を残し、よさを伝えるために「ひのきの森プロジェクト」の取り組みを行っている。永続的な活動になるよう、1年間の活動の報告会を全校に向けて行っている。下の学年の子ども達は、6年生の姿を見てきており、6年生になったら「ひのきの森」の活動を行うんだという意識が根付いている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

教職員の中でESDに関する評価を行い、達成状況や指導内容の評価を行った。成果としては、2年生での多摩川での活動から3年生の大栗川での活動、3年生の大栗川の学習でゴミの多さに気付いた点から4年生でのごみ箱設置への活動と継続性をもつことができた。また、学校外での活動であったため、地域の方や保護者の方に活動が見えるという点で取り組みの発信へとつながった。課題としては、環境改善の方策が実現できるよう、より多くの関係諸機関の開拓と予算の確保を考えていきたい。

⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

6年生における「ひのきの森プロジェクト」においては、多摩市の小中学校が学習の成果を発表し、多摩市の50年後の姿を考えメッセージ発信する「多摩市子ども未来会議」で、取り組みの発表を行った。学校の敷地内にあるひのきの森を残すために、環境を整備したり、森を生かした遊具を作ったりした。発信したことにより、身近な環境に目を向け、小さなことから継続して活動することが環境を守ることに繋がっていくことを児童が実感するとともに、取り組みに対する反応を他の学校から得ることができた。また、学校内での活動内容の発表でも、自分たちの取り組みの再発見と5年生への引き継ぎを行うことができた。

⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など) (200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

2年生や3年生の川の学習、6年生のひのきの森の学習においては、多摩市の環境団体である「多摩市水辺の楽校」に所属する地域の方に協力していただいた。川の学習においては、水の中の生き物が住む場所やガサガサ体験を教えていただいたり、川の遊び方を教えていただいたりした。ひのきの森の学習においては、子どもたちと一緒に「おやじの会」という保護者(父親による任意団体)の方々に協力していただいた。また、4年生の学習では、学校の近くの公園にゴミ箱を設置したため、多摩市の市役所と連絡を取り合い設置する日や撤去する日を決めた。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

現在、本校では新庄市立北辰小学校と交流を行っている。1年間の学習の成果をお互いに交換し合い、それぞれの学校の活動に生かしている。また、来年度は、ネットワーク会議を実現したいと考えており、そのノウハウを蓄積中である。現在は、国内の交流にとどまっているため、今後国外へと活動を広げていきたい。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき(特に強調したい)内容(例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化)(200字程度)

※チェック事項 2-5 に対応

2年生での多摩川の学習においては、「多摩市水辺の楽校」の方に協力していただいただけではなく、保護者にも希望をとり引率していただいた。学校での取り組みを保護者の方や地域の方と協力して行うことができたことは、学校の取組の浸透の面からも意義が深い。また、2年生での多摩川の学習と4年生のごみの学習においては、「多摩市エコ・フェスタ」(H30.1開催)で展示発表を行い、活動したことが発信できる良い機会となると同時に、広く多摩市民への啓発につながった。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

本校のすぐ前に大栗川が流れていることや田んぼがあること、ひのきの森があることから、社会の時間や総合的な学習の時間を通して、主に3～6年生で環境に関わる取り組みを行っていく。2年生では多摩川、3年生では大栗川に行き、川の生態について知る学習を行う。4年生では、3年生の学習を基盤に川をきれいにしよう、ごみを減らそうという資源の浪費を防ぐことに目的をもち、大栗川でゴミ拾いを行ったり、公園にゴミ箱を設置したりする活動を行う。5年生では、田おこしや田植えを実際に行うことで日本の米作りを知り、日本の米料理との比較から、世界の国々の食事や自然にも興味をもち、苦労や喜びを体験する活動を行う。6年生では、学校林「ひのきの森」について調べ、大切な自然を未来に残すための課題を追究し行動する活動に取り組んでいく。平成30年度は、どの学年でも、自分たちで課題を設定し、友達や校内、学校外へと発信する活動を行うようにする。また、環境を守るために自分たちは何をすればいいのかを考え、より具体的に自分たちが実行できる活動を模索し、実践を意図的に行うようにしていく。